

TIC NEWS

vol. **65**
2002.10

(財)とやま国際センター
〒930-0856 富山市牛島新町5-5
インテック・タワー111 4F
TEL(076)444-2500
FAX(076)444-2600
E-mail:tic@quartz.ocn.ne.jp
URL:<http://www.jeims.co.jp/tic/>



とやま国際塾

8月6日・7日、県内高校生と教員、世界13ヶ国からの海外技術研修員、留学生、国際交流員、語学指導助手の総勢92人が利賀村に集い「とやま国際塾」を開催しました。高校生は国際理解・協力コース、留学実践コース、教員は総合学習コースに参加して、いろいろなワークショップなどを通じて交流を深めました。

外国人生活相談

平成2年の入管法の改正により、日系人、特にブラジルからの入国者が全国的に増加しました。富山県においても、平成3年には671人であったブラジル人の数は平成13年には3,946人と5.9倍の伸びを示しており県内外国人登録者数10,749人の36.7%となっています。

とやま国際センターでは、県内在住外国人の日常生活での困難、問題などを解決、支援するため外国人生活相談をおこなっています。今年度上半期の活動を報告します。

在名古屋ブラジル総領事館 1日移動総領事館開催

パスポートの発行・更新、出生・婚姻登録などのサービスを身近なところで受けられるよう「1日移動総領事館」が7月7日(日)、高岡市本丸会館で行われました。9時の開始後には早くも会場が人で埋め尽くされ、富山県をはじめ北陸地域から総勢637人が訪れました。

高岡市ととやま国際センターでは、入管、法律、医療、生活、環境の各相談コーナーを設けて様々な相談にのりました。



外国人出前相談 in 健康と福祉の祭典（魚津市）

9月8日(日) 魚津市ありそドームで開催された「健康と福祉の祭典」にあわせて、とやま国際センター出前相談を行いました。センターの相談員永山コニコさん(ブラジル)、天坂仁美さん(韓国)、ナルシサ・ウィ・ユさん(フィリピン)が様々な生活相談にのりました。

出前相談は新湊市で10月16日(水)に開催を予定しています。



外国人のための生活相談

当センターでは、急激に増加する県内在住外国人の方々からの相談に母国語で対応するため、多言語による生活相談を下記により実施しています。生活上の問題などでお困りの方、気軽に相談して下さい。

月曜日：英 語	9：00～17：00
ポルトガル語	13：00～17：00
中国語	13：00～17：00
火曜日：韓国語	12：30～16：30
水曜日：ポルトガル語	9：00～17：00
韓国語	13：00～17：00
ロシア語	13：00～17：00
英 語	13：00～17：00
タガログ語	13：00～17：00
木曜日：ポルトガル語	12：30～16：30
金曜日：英 語	9：00～17：00
中国語	13：00～17：00
ポルトガル語	9：00～17：00

日本語ボランティア養成講座

日本語ボランティア養成講座は今年で5回目を迎えました。

開講以来、受講者が日本語を教えることを面白いと感じ、「教えてみよう」「もっと勉強してみよう」と思ってもらえるような講座内容を考えてきました。

そして、ことばの裏側にはそのことばを用いている人々の文化があり、日本語を教えることは日本の文化を伝えることである、という異文化理解の視点にも重点を置いてきました。副読本には「異文化理解のための日本語教育Q&A」(文化庁)を使用してきました。

7月から9月にかけて毎水曜日、全20時間という短い時間のなかで、「自分で教材を準備できるようになる」ことをポイントに今回の養成講座を組み立てました。

今回は、富山大学留学生センターの深澤先生が「日本語ボランティアお役立ちクイックマニュアル」を作成してくださいました。

日本語を学習する人のニーズが多様化し、多文化共生の社会が到来している今、その社会にあった日本語ボランティアのあり方を今後とも考えていきたいと思えます。



深澤先生と受講者の皆さん

とやま国際センター 職場体験！

とやま国際センターでは新庄中学校2年生3名、富山国際大学3年生2名をそれぞれ職場体験生として受け入れました。

チャレンジWORK！新庄!!「14歳の挑戦」

期間：平成14年7月1日(月)～7月5日(金)

1週間の間、とやま国際センターでニューズレター発送作業、ファイリング、郵便物の整理などの業務を体験された皆さんは仕事の大変さを実感されたようです。

なかでも国際交流員やJICAの国際協力推進員に実際の海外の話聞いたことは忘れられない思い出となったようです。



海外からの研修員と記念写真。左から福原さん、堀田さん、蜷川さん



企画のプレゼンテーションをする学生。左から大西さん、中井さん

富山国際大学インターンシップ(学外研修)

期間：平成14年9月2日(月)～9月12日(木)

約2週間の間、とやま国際センターの通常業務に加え、自ら国際交流イベントを企画し、広報を作成するという体験をしました。広報のレイアウトや分かりやすいプレゼンテーションなどに頭を悩ませながらも、面白い企画を提案してくれました。

2名の生徒は8月の「とやま国際塾」においてもスタッフとして運営補助に加わるなど、幅広く活躍してくれました。

とやま

国際理解・教育コース

フォトランゲージ

高校生と留学生・海外技術研修員がグループに分かれ、各国家族の写真の好きな所、嫌いな所などについて話し合いました。どんな所が良い、悪いと思うか、参加者からは出身国や個人によって様々な意見が出ました。最後の写真がどこの国の家族かを当てるクイズでは全問正解のグループがあり盛大な拍手が沸き起こりました。



こちらは高校生、ブラジル人研修員、中国人留学生の混合グループ

異文化理解ワークショップ「地球市民としての私達」

農業社会、工業社会、情報化社会という三つの社会の良い所、悪い所についてグループに分かれ話し合い、未来に向けて自分達の住みたい社会について意見をまとめ、発表しました。「外国人も日本人も同じように考えているんだ」という感想の音が聞かれました。



外国人グループの発表「私達はこんな21世紀にしたい」

生きた外国語学習に取り組み、異文化理解を深め、幅広い国際交流を体験してもらうことを目的に「とやま国際塾」を開催しました。

コース別に行ったワークショップなどの活動を報告します！

～みんなと交流タイム～



“バーベキュー” 華麗なるチームプレー



“サルサ” 踊りだす人、眺める人



“木工はトライ” ひたすら集中



“そば打ち” やっぱり利賀の味

参加者の皆さんの声

新田 久美子さん（富山商船高専2年）

参加の目的は韓国人の友達が欲しかったことと、韓国語をたくさん話したかったからだ。私が参加した国際理解・協力コースは、日本人である高校生よりも留学生や研修員の人数が多く、色々な国の人で溢れかえっていた。私は目的を達成するために2人の韓国人と積極的に話をした。スペイン語も教えてもらったし、国境を越えてたくさんの友達ができた。体験のなかで、言葉が通じなくても人と人とは通じ合えることを学んだ。これはこれからの私にとって大切な財産となるに違いない。



汪 小紅さん（海外技術研修員 中国出身）

日程の最後に「合掌造り」を見て、故郷、雲南省のタイ族の「竹楼」と似ていると思った。中国と日本には文化の共通点がたくさんある。フォトランゲージのワークショップでは、みんなが一緒に「笑顔、友情、家族、青空、清潔」といったことが好きなのに驚いた。それが世界の人々が共通に愛する点といっても過言ではないのでは？日本の高校生、様々な外国の方と交流ができてよかった。



左から研修員の汪さん、張さん、マリオさん

押田 佳奈枝さん（富山商船高専2年）

私は中国語を勉強しているので、自分の中国語を試してみたかったし、中国の生活・文化について知りたかった。最初は話しかけるのが不安だったけど、私が「ニーハオ」と話しかけると、驚きと嬉しさいっぱい笑顔で「ニーハオ」と返してくれた。それからは日本語、中国語、英語そしてジェスチャーの混ざった会話でたくさん話をした。今回学んだことは書き表せないくらいあるが、共に過ごして一番感じたことは「言葉や国の違いは大きいことではない」ということだ。考えていること、感じていることは言葉を通さなくても伝わってくる、笑顔や笑い声は世界共通なんだと。留学生、研修員の皆さんは母国に家族を残し日本に来て一生懸命勉強している。来年の春には帰る人が多く残念だけど、それぞれの夢に向かって頑張ってください。私も頑張る！

* 富山県高等学校国際教育研究会に寄せられた感想です

国際塾



総合学習コース

ワークショップ “国際理解教育って何のため?”

高校の教員等が国際理解教育の目的について考え、今の学校教育の現状を踏まえた上でこれからの可能性について議論しました。「国際理解教育は英語教師だけの仕事ではなく、みんなが考えるものだ」という感想が印象的でした。



活発な意見交換をおこなう参加者

留学実践コース

5つの授業を英語で行いました。それぞれの感想は……

天文学 (ゲーム形式で天文学について理解を深める)

- ゲーム感覚で星の名前などの単語を覚えられた



演劇 (グループで寸劇を作り発表)

- 自分達でシナリオを作って発表できて楽しかった



コミュニケーションゲーム

(グループに分かれ英語でコミュニケーションを取りながら、各自与えられたハンディ (目が見えない等) を克服し、ストロー等の材料で最も高い塔を作るゲーム)

- 障害のある人の歯がゆさがわかった

クリケット (オーストラリアで盛んな球技を体験)

- ルールの説明が難しかったけど、面白かった

異文化理解 “Me We Game” ゲーム

(2つの違う考えをもつグループが意見、文化の衝突を乗り越え交渉するゲーム)

- 互いの価値観の良い所を分かち合うことが必要と感じた

林 由希子さん (新湊高校2年)

利賀村へ向うバスの中で外国人と普通に会話をしている高校生をみて、この二日間やっていけるか不安だった。しかし授業はとても楽しかった。5人のそれぞれ違う障害をもつ人が協力して1番高い塔を作るゲームでは、目の見えない人の何かしたいのに何もやれないつらさが理解できた。ゲーム感覚の授業で大切なことをたくさん学ぶことができた。

1番楽しかったのはみんなでサルサを踊ったことと、ビーチバレーとクリケットをしたことだ。クリケットではALTの先生に「あなた上手ね。ソフトボールでもやってるの?」と聞かれ、「私はバスケをやってるわ」といい発音で答えられたことが嬉しかった。とやま国際塾で同年代の人たちと接することで、今までよりもっと英語を話したくなった。もっと勉強しなければ。

ポーリーン・キャンベルさん

(水橋高校ALT)

国際塾では素晴らしいひとときを過ごした。生徒も、学んだり新しい人と出会ったりするなかで貴重な時を過ごしたと思う。やはり人との出会い、それが一番大事なことだと思う。私自身もこのイベントを通して、「こんな素晴らしい”元気キッズ”と出会えたこと、そして世界各国の人々と出会えたこと、このめったにない機会を与えてもらったことに感謝したい。



澤田 恵利加さん (新湊高校2年)

クリケットは最初の説明がよくわからなかったけれど、やっているうちにできるようになった。スポーツでも英語でも何回でもやってみてコツがつかめてくるものと思った。

利賀村の自然の中でバーベキューをしたり、そば打ちをしたりしながら国際交流をすることはめったにないことで価値のあることだった。最初は不安だったが他の学校の人も仲良くなれたし、国際交流ができてよかった。



国際協力富山県民シンポジウム - 地域発の国際協力 -

と き：平成14年9月21日(土) ところ：富山市民プラザ4階 アンサンブルホール

【基調講演】

テレビなどでもお馴染みで、日本とアフリカの“かけ橋役”として幅広く活躍中のオスマン・サンコンさん(日本ギニア友好協会広報官、ギニア大使館顧問)が、ギニアと日本の文化の違いや国際協力における笑顔や思いやりの大切さを語りました。

サンコンさんは、「視力6.0のニッポン」と題して講演し、1972(昭和47)年に初来日したときは日本語がまったく分からず、気候や文化の違いに戸惑ったことを挙げ、「私はさまざまなハンディを持って日本に来たが、言葉が通じなくても気持ちと笑顔があれば通じ合えると分かった」と話されました。また、ギニアの首都コナクリの街並みや学校をスライドで紹介し、「各家庭で子どもが生まれるごとに木を植える」とギニアの文化についても語っていただきました。



左から白山氏、定村氏、藤原氏、パンスコータ氏

【パネルディスカッション】

国際協力事業団北陸支部支部長代理の米崎英朗氏がコーディネーターとなり、パネリストには富山大学教育学部助教授の藤原孝章氏、富山県青年海外協力隊を育てる会会長の白山肇氏、AJA FOUNDATION(ガーナの子供達に奨学金を給付する活動をしている国際協力NGO)事務局長の定村誠氏、富山医科薬科大学和漢薬研究所助手のアルジュン・ハリ・パンスコータ氏を迎え、「とやま発の国際協力 - 海外経験を通しての国際協力 - 」と題して、討論を繰り広げました。

白山さんと定村さんは、青年海外協力隊参加が現在の活動の出発点だと語り、「支援する立場で行ったが、実際は現地の人に助けられお世話になった」、「開発途上国への支援といっても、直接的な支援もあれば、地球規模の問題を疑似体験しながら考える“開発教育”という間接的な支援もある。まずはどんな支援の形があるか、国際交流フェスティバル2002(9月21日(土)、22日(日)同会場にて開催)に参加している団体のブースを覗いてみるだけでも、参加の第一歩につながるのではないかと話されました。



フェスティバル開会式でセネガルの楽器コラを演奏する米崎氏

青年海外協力隊現地レポート

今回から、現在派遣中の青年海外協力隊・シニア海外ボランティアの方々から届いたお便りを皆さんにお届けします。今回は、大沢野町出身の飯野令子さんです。

活動と日常生活あれこれ

大連市金州区内の日本語を教えている小・中学校を巡回し、中国人教師に、教授法などのアドバイスをしたり研修会を開いたりしています。また、遼寧省小学校日本語教科書を作成中です。

金州区は大連市の郊外で、大部分が農村地帯です。スーパーやコンビニのような店、八百屋・果物屋・市場などはあちこちにあるので、生活はとても便利です。大連はすぐ近くに黄海や渤海があり、新鮮な魚介類がいつでも食べられます。味付けも、辛くも塩辛くもないので、日本人好みの中華料理が食べられます。

中国といえば、やはりトイレです！コンクリートの床に細長い溝(穴)があり、そこから下に落ちるようになっているだけです。隣との低い仕切りはありますが、ドアはありません。休み時間に生徒たちと一緒にトイレに行くのは、今でもちょっと恥ずかしいです……

富山の皆さんへメッセージ

大連は富山との関係が深く、訪れる方も多いと思いますが、大連の小・中学校で正規の外国語教育として日本語が教えられていることをご存知の方は少ないと思います。日本語は特に農村部の貧しい地域で多く教えられています。このことを富山の皆さんに知っていただいて、子供たちがよりよい環境で日本語を学べるように援助して下さる方や交流して下さる学校があったら、どんなに素晴らしいだろうと思います。



飯野 令子さん

(青年海外協力隊シニア隊員)

派遣国：中国 遼寧省大連市

職種：日本語教師

派遣期間：平成12年12月～平成14年12月

とやま名誉大使からの便り

あん さんちよる
安 相 詰さん

平成13年度自治体協力交流研修員
研修先：富山県東部家畜保健衛生所
出身国：韓国

現在の仕事について

韓国江原道家畜衛生試験所北部支所で家畜の疾病防疫や畜産物検査の仕事をしています。

近況について

動物の治療とパソコンで情報を集めることに興味があります。

富山に対する感想

富山はきれいで静かなところでした。ただし、冬の天気が厳しかったです。あと、交通網をもっと拡充した方が良いと思います。私が住んでいるところは富山と似ていますが、公共交通料金がもっと安いです。

もう一度日本に来ることができるとしたら何をしたいですか？

畜産関連機関や学校に行って現在の畜産状況を把握して、両国の友好と畜産の発展に寄与したいです。



左から安さん、国際センター小松、モンゴル出身海外技術研修員エルデネバヤルさん

おう きい
王 希為さん

平成12年度遼寧省交換職員
研修先：富山県、富山大学経済学部
出身国：中国



現在の仕事について

中国遼寧省朝陽市対外貿易経済合作局の副課長として、外資の誘致、外資企業設立審査等の仕事をしています。

国の状況について

6月には中国サッカーチームが44年の努力を経てようやくワールドカップに参加できました。みんなが関心をもって見守りました。

富山に対する感想

富山は自然豊かで住みやすい所で、富山県民は素朴で親切です。世界にありのままの富山を紹介し、いいものを世界から謙虚に学ぶ富山県民に強く心打たれました。

1年の研修の後、私は富山と日本に対してより親しみを感じるようになりました。富山は私の第二の故郷だと思います。富山という言葉の口にすると言葉にできないノスタルジアが心の中に湧いてきます。中国と日本の友好がいつまでも続くことと富山、そして日本の発展を心からお祈り致します。

ポール・マックラウディ・モホーニさん

平成12年度海外技術研修員
研修先：北陸電話工事(株)
出身国：タンザニア

現在の仕事について

タンザニア電話通信会社でシニアアシスタントエンジニアとして働いています。

近況について

私はフットボールファンです。ファンであるシンパススポーツクラブがヤングアフリカンススポーツクラブに4対1で勝利し、ナショナルチャンピオンとなりました。嬉しかったです。

富山に対する感想

富山は発展している県です。自然の美しさ、豊さに恵まれ、それをうまく活用しています。人々はよく働き、外国人にだけでなく互いに寛大に接しています。また富山県は世界の国々から研修員を受け入れています。ただアフリカからの研修員が少ないのが残念です。

また富山は色々な国の市町村と交流をしたいと考えているようです。タンザニアの中の町が富山県や県内の市町村と友好を結び互いに協力できるようになれば素晴らしいことだと思います。



国際交流員紹介！



ロシアからの国際交流員ワレーリヤさんを紹介します！

皆さん、こんにちは！私はこの8月にロシアから国際交流員として富山県に来たクラスノジョン・ワレーリヤと申します。これから富山県庁国際・日本海政策課と、とやま国際センターで国際交流員として勤務します。

生まれ育った町は富山県と友好関係の深いウラジオストク市です。ウラジオストク市は、ロシアの極東にあり、沿海地方の首都となっています。東も西も海に囲まれていて、坂が多く、自然が豊かな町です。

富山は私にとって第二の故郷です。何故なら2年前にここで1年間留学生として過ごしたからです。帰国してからも富山の人と自然に囲まれた生活を思い出し、また戻りたいという気持ちになりました。そしてやっと私の夢がかなったのです。



ウラジオストクはシベリア鉄道の起点

これからももっと富山のことを学び、自分のこと、母国のことを皆さんに紹介したいと思います。

皆さん！力を合わせて相互理解のために努力しましょう！よろしくお願いします。



ソビエト政権樹立のため戦った兵士を記念する広場

セビーチェ Cebiche

セビーチェは南米でよく食べられるマリネ風の料理です。エクアドルでは朝食、昼食として、ご飯、揚げたじゃがいも、バナナジュースなどと共に食べます。ご飯は少量の塩と油を入れて炊くとより南米風になります。



～作り方～

- 1 スライスしたトマト1個とみじん切りした玉ねぎを塩を入れたレモン汁につける。
- 2 皮をむいたトマト3個と水カップ1杯とニンニクと塩をミキサーにかける。
- 3 皮をむいたエビを2でゆでる。
- 4 エビに火がとおったら1に3をかけて出来上がり。

- ～材料(4人分)～
- トマト..... 4個
 - 玉ねぎ..... 1個
 - レモン..... 2個
 - エビ..... 10尾
 - ニンニク..... 1かけ
 - 塩..... 少々

エクアドルからの
海外技術研修員
モイセスさんお薦め料理！



TICからのお知らせ

これからの行事予定

- 10月 ・ 富山県・ロシア沿海地方友好提携10周年記念展
- ・ 外国人出前相談(10月16日(水)新湊市)
- 11月 ・ 保健・医療通訳ボランティア養成研修
- ・ 青年海外協力隊帰国報告会
- ・ 国際協力県民講座(黒部市)
- 12月 ・ 国際協力県民講座(高岡市)

利用しませんか？

- ・ 世界27ヶ国の国旗、卓上旗、万国旗を貸し出しています。
- ・ 国際交流、国際協力に関する企画展示をされたい方に展示スペースを開放しています。
- ・ 国際交流に関する募集広告などが掲示できる”国際交流情報掲示板”があります。

詳しくは事務局にお問い合わせください！